

PPS023-10

会場:303

時間:5月26日 11:30-11:45

若手の目から見た惑星探査の将来像

A future image of lunar and planetary explorations from the viewpoint of a young scientist

諸田 智克^{1*}, 石原 吉明²

Tomokatsu Morota^{1*}, Yoshiaki Ishihara²

¹ 宇宙研, ² 国立天文台

¹JAXA/ISAS, ²NAOJ

日本惑星科学会の将来惑星探査検討グループが主催する「月惑星探査の来たる10年」の活動は「惑星科学コミュニティの力量を自覚した上で探査の将来計画を自主的に企画する」ことを目的としている。これまでも将来探査を検討する活動はあったが、それらと今回の活動の大きな違いは目的の中の「コミュニティの力量を自覚すること」と「自主的に企画する」の部分に表れている。特に前者に関して、科学的観点からはあれも大事これも大事と総花的に言いたくなるが、予算はもちろん、我々の技術力もマンパワーも有限であるため、優先順位づけは必須である。

10年後の惑星探査の現場における主役は現在の「若手」であり、このような惑星探査の将来像を決める検討作業に若手研究者の参加は重要である。本講演では若手研究者に目からみた惑星探査の将来像について議論したい。

キーワード: 月惑星探査, 若手研究者

Keywords: lunar and planetary explorations, young scientists